

あまが咲

 兵庫県立尼崎総合医療センター
Amagasaki General Medical Center (AGMC)

だより

[院内専門センターのご案内]

臨床研修センター

「“選ばれる病院”を目指して!

教育・研修の充実した

マグネットホスピタルの実現をサポート」



[AGMC委員会・部会めぐり] 防火・防災管理委員会

- [AGMCニュース] 『成人先天性心疾患診療センター』設立
- セミナーのご案内
- スタッフのつづやき
- ぶらり〜っと病院探訪

臨床研修センター



「選ばれる病院」を目指して！ 教育・研修の充実した マグネットホスピタルの実現をサポート

院内専門
センターの
ご案内

複数の診療科・部門を一つに
まとめ、診療機能を統合させた
当院の(センター)を
ご紹介します。

臨床研修センターの特徴

病院運営の基本方針に、医療水準向上のための「教育、臨床研究、自己研鑽」を掲げています。医学生の実習支援・病院見学支援、研修医の採用・初期臨床研修支援、新たな専門医制度の研修サポートを行い、各領域における優れた人材の確保と育成の環境作りをサポートしています。



教育部長・研修教育
センター長
腎臓内科科長
透析センター長

竹岡 浩也

- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本腎臓内科 専門医
- 日本透析医学会 専門医
- 日本老年医学会 専門医
- 日本高血圧学会 指導医
- ICD制度協議医会 認定Infection Control Doctor
- 京都大学臨床教授、徳島大学臨床教授

組織構成

診療部5名、総務部4名、医療秘書2名

取り組み、実績

院内外で病院説明会の企画・運営、院内協力を得ながら、当院の魅力を発信しています。

平成29年度に当院を見学・実習した医学生は年間598名。また大学からの医学部実習医学生を年間166名受け入れ、指導医の元での円滑な実習に寄与しています。

「選ばれる病院」のスローガンと院内各部署の協力のお陰で、平成30年度採用の初期臨床研修応募者は、過去最高の79名に上り、24名の研修医が入职しました。

平成30年度からはじまった新たな専門医制度でも、研修医に「選ばれる病院」を目指した支援を行っていきます。



後列左から:総務部 仲井 剛/総務部 高谷典裕/秘書 田端友美/秘書 青野涼子
前列左から:小児科プログラム責任者 毎原 敏/一般プログラム責任者 竹岡浩也
一般プログラム副責任者 松村 毅/産婦人科プログラム責任者 廣瀬雅哉



● 臨床研修センター内
(連携他施設との調整、指導医への報告)



● 研修医室にて



● 専門研修プログラム管理委員会



● レジナビフェア大阪 AGMCブース



● 研修医修了式・レジデントオブザイヤーの発表会

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

明日の医療を担う人材育成のために、教育研修病院として、指導者指導の下で、医学生・歯学生・看護学生・薬学生などが臨床実習・臨床研修の一環で診療に参加する場合があります。ご理解くださいますようお願い申し上げます。





防火・防災管理委員会委員長／管理局長
菅原 誠

適切な運営および安全な医療提供を行うために、
多職種で運営されている院内委員会・部会です。

防火・防災管理 委員会

《構成メンバー》

- 委員長1名(管理局長)
- 副委員長1名(総務部長)
- 診療部3名
- 看護部3名
- コメディカル部門(各部門長)、事務部門5名
- 事務局(総務課)2名

活動内容

- 消防設備等の維持管理に関すること
 - 自衛消防組織の運用体制、装備等に関すること
 - 消防・防災訓練の実施に関すること
 - 職員の教育及び訓練に関すること
- に取り組んでいます。
- また、今年度は、災害拠点病院としての役割を果たすために必要なBCP(事業継続計画)の作成にも取り組んでいます。

防災の取り組みを紹介 **訓練の様子**

6月20日(水)、火災発生時に職員が迅速かつ適切な避難誘導や初期消火活動、消防署への通報を円滑に行い、入院患者さんや来院者さんの安全確保を図ることを目的に、消防訓練を実施しました。

今回は夜間に火災が発生した想定で、火災発見からの初期消火、連絡、通報、避難、誘導などの一連の流れに加え、屋内消火栓・水消火器を使用しての消火訓練や救助袋を使った避難訓練を実施しました。日頃からの職員の防火・防災意識の向上に取り組むとともに、火災を発生させないための体制づくりを優先的に考え、日々の消防設備の点検等にもより一層力を入れていきたいと思っております。



消火器による消火訓練



屋内消火栓での初期消火



模擬患者を搬送



救助袋を使用しての避難訓練



『成人先天性心疾患診療センター』設立

写真左から
今井医師
坂崎医師



「成人先天性心疾患外来」
(月曜：坂崎／水曜：今井)

▶成人先天性心疾患とは



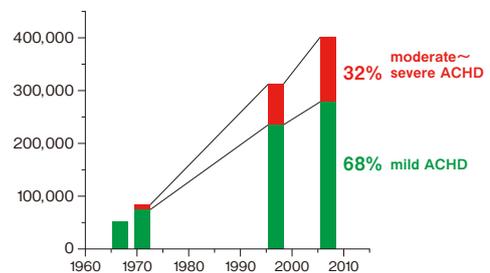
先天性心疾患とは生まれつき心臓の構造異常をもつ疾患群で、軽症のものから中には生まれて間もなく命を落とすほど重症なものもあります。しかしながら近年の外科手術やカテーテル治療の発達により、先天性心疾患患者さんの約9割の方が成人期を迎えることができるようになり、現状では患者さんの約半数が成人となっています。

これらの患者さんの大多数は生涯にわたり経過観察が必要のため、当院では数年前から『成人先天性心疾患外来』を開設して診療してきました。患者さんの多くは小児期から継続して通院されているため、小児循環器内科が診療の主体を担ってきましたが、患者さんが成人となって高齢になるにつれて、小児期とは異なる高齢者特有の問題も生じるため、小児循環器内科医が生涯にわたり診療の主体を続けることに限界があることは、当院のみならず全国の他施設でも議論されてきました。

▶成人先天性心疾患の診療体制をパワーアップしました

このたび京都大学附属病院で成人先天性心疾患患者さんの診療を担当していた(成人の)循環器内科医である今井逸雄院長が当院の循環器内科に着任しました。これを契機に『成人先天性心疾患診療センター』を開設し、従来から診療主体であった小児循環器内科医や手術を担当してきた心臓血管外科医に加えて循環器内科医も診療チームに参加することになりました。これにより小児期(場合によっては胎児期)から後期高齢期までの生涯にわたり継ぎ目のない診療が可能となりますので、今まで以上に幅広く患者さんの受け入れをしたいと思っております。

図1.日本における成人先天性心疾患患者数の推移



▶成人の心房中隔欠損症や卵円孔開存症のカテーテル治療も合同チームで実施しています

心房中隔欠損症や卵円孔開存症のカテーテル治療は、成人患者も含めて小児循環器内科で行ってきましたが、成人の症例については小児循環器内科と循環器内科が協力して合同チームで実施する体制を構築しました。これにより高齢者特有の合併症をお持ちの患者様も、より積極的に対応可能となりましたので、気軽にご相談いただけましたら幸いです。

(小児循環器内科 科長 坂崎 尚徳)

セミナーのご案内



治療

診断

検診



第70回市民すこやかセミナー

多くの方のご参加を!

テーマ 『婦人科がんで死なないために』

～住み慣れたお家で自分らしく暮らしていくために～

【講師】 県立尼崎総合医療センター ●産婦人科 医師 田口奈緒

【日時】 平成30年8月9日(木曜日) 午後2時～3時30分

【場所】 県立尼崎総合医療センター 講堂(1階) 参加費:無料(予約不要)

★お問い合わせ: 県立尼崎総合医療センター 地域医療連携センター ☎ 06-6480-7000(代表)

スタッフのつばき

安心できる採血室を目指して！ 上手な採血の第一歩は、患者さまとの信頼関係



採血室 戸田 圭三

採血に対して“痛い”“待ち時間が長い”などのイメージをお持ちではありませんか？
「病院は検査から始まる」と言っても過言ではありません。そこで、少しでも悪いイメージを無くすために、当院の採血室(表紙写真)を紹介させていただきます。



まず、一日の採血患者数は500~700名で、朝は混み合います。そのため、医師と相談の上、午後にお越し頂くと採血室は空いています。また、当院では「翼状針」と呼ばれる細くて小さい針を使用していますので、昔の長くて太い針と比べると痛みは軽減されています。採血ブースは10台あって、臨床検査技師5台、看護師4台、医師1台で受け持っています。確かに、看護師は、採血が上手ですが、若い臨床検査技師の中にも採血上手がいます。上手な採血の第一歩は、患者さまとの信頼関係です。これからも、安心してお立ち寄り頂ける採血室を目指します。

ぶらり~っと 病院探訪

看護師ひとりひとりを細やかにバックアップ

キャリア支援室

今回の訪問先、キャリア支援室は4階にあります。
看護師が着実にパワーアップできるようにサポートするのが役割で、緻密で多彩な院内研修や県立病院間の研修をコーディネートされているそうです。
他にも、「バンブースクール」では、「新人研修で行った技術の練習」や「研修の事前・事後課題の相談」など、個人の課題の相談を何でも受け付けて、行き届いた支援をされています。

より良い看護が行えるための何でも支援



また、キャリア支援室のもう一つの役目は、仕事に疲れた看護師が、日頃の悩みなどをリラックスして話し会える場を提供することで、全看護職員対象に、時間外に「OOカフェ」をオープンされています。暖かいドリンクと甘いお菓子、そして、にぎやかな会話が日頃のストレスを発散？！看護師ひとりひとりを細やかにバックアップしてくれるキャリア支援室、心強い存在だなあと感じました。

編集後記

この広報誌が皆さんのお手元に届くころには、ロシアでのサッカーW杯も終わり、サッカー世界一國が決まっていることでしょう。西野Japanは、どこまで頑張れたのでしょうか？来年は、ついに日本で初めてのラグビーW杯が開催。そして、2020年には、2度目の東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。スポーツファンにとっては、大きなスポーツの祭典が目白押しで、少しワクワクした待ち遠しい日々が送れるのではないのでしょうか？小生も大のラグビーファンで、ラグビーW杯が楽しみです、チケットがちょっと高いですね…(>_<)

(H.S.)



兵庫県立尼崎総合医療センター

Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号 TEL 06-6480-7000(病院代表) FAX 06-6480-7001

URL: <http://agmc.hyogo.jp/>

兵庫県立尼崎総合医療センター

検索